

令和5年度 公共事業再評価（農業農村整備事業）

畑地帯総合整備事業

西浦みかん東部地区

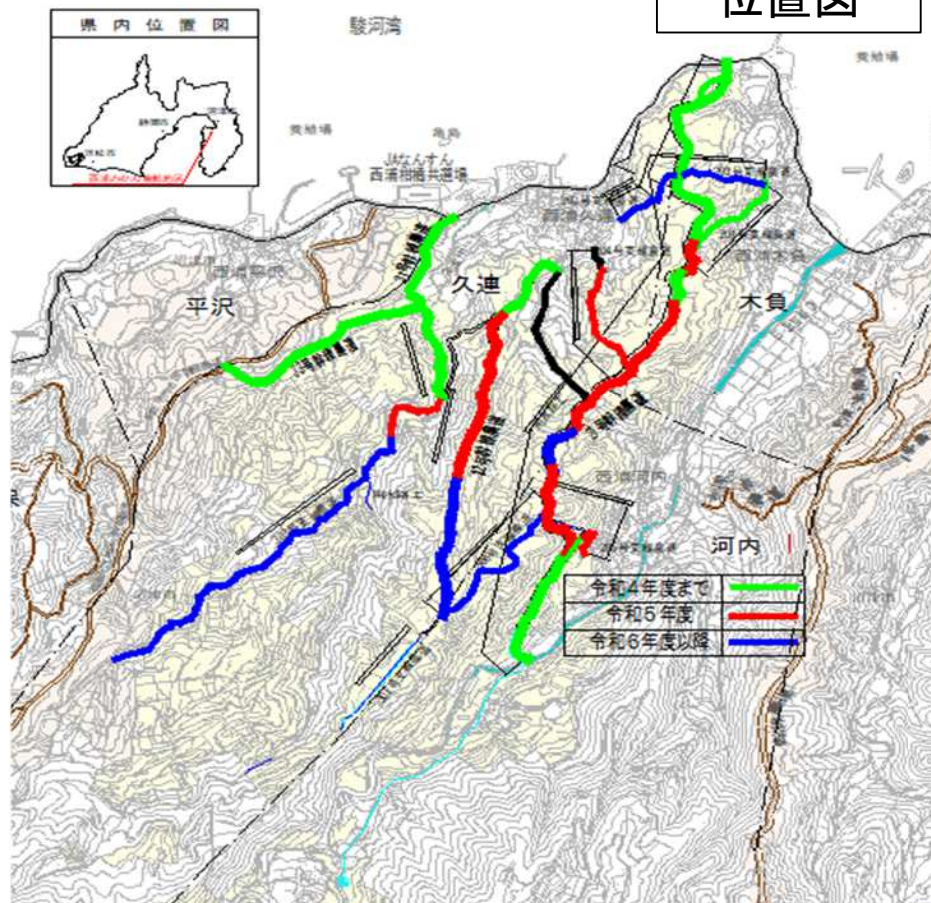
経済産業部 農地局 農地整備課

1 事業概要／位置図 事業概要 事業の目的

経営体育成基盤整備事業（畑地帯整備型・担い手支援）

西浦みかん東部地区 計画一般図

位置図



事業概要

施工箇所：沼津市西浦木負、西浦河内
西浦久連、西浦平沢

受益面積：207.4ha（受益者183名）

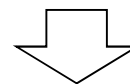
工期：H25年度～R11年度

事業費：4,400百万円

事業内容：農道工 延長8,903m
用水路工 延長3,058m

事業の目的

- 農道が狭く、集出荷作業、農業資材や用水等の搬入・搬出に苦慮している。
- 農業用水の給水スタンドが不足し、防除や施肥作業における作業効率が低い。
- 農地が急傾斜であり、担い手農家の営農の規模拡大が進まない。



営農の効率化、農産物の品質向上を図るため、農道及び用水路の整備を行う。



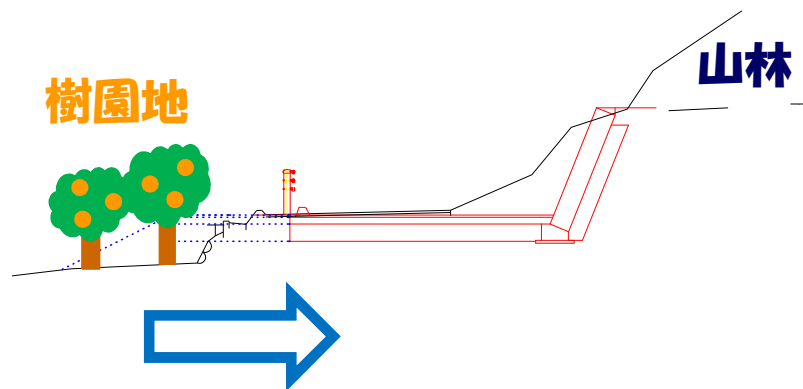
1 事業概要／当初計画からの変更

項目	当初(H25)	今回(R5)	主な変更理由
①計画期間	H25～R04	H25～R11 (+7年)	農道のブロック積延長増等に伴い、完了年度を令和11年度まで延伸
②全体事業費	2,665百万円	4,400百万円 (+1,735百万円)	・農道のブロック積延長増、路床安定処理固化材の変更による増 ・人件費の高騰、補償単価の見直しによる増

当初からの変更（工法変更）

- ・ 既存樹園地保全のための農道線形見直しによるブロック積の延長増（561百万円）
- ・ 柑橘の品質への影響に配慮するため、路床安定処理固化材を発塵防止型に変更（55百万円）
- ・ 人件費高騰、果樹補償単価の見直しによる測量試験費、用地補償費の増（559百万円）
- ・ 物価変動のための自然増（560百万円）

樹園地を減らさないよう線形見直し



【視点1】事業の必要性等／(1) 社会経済情勢等の変化

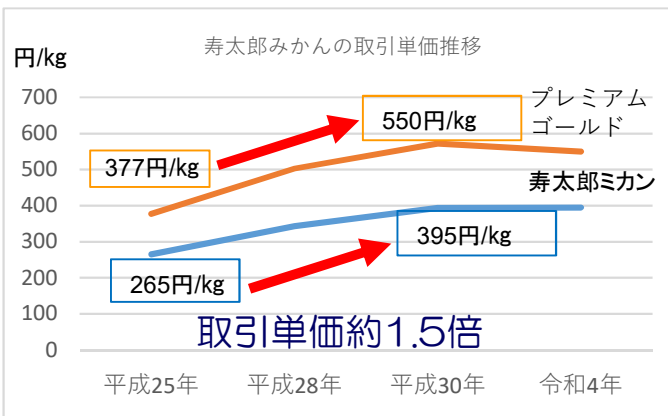
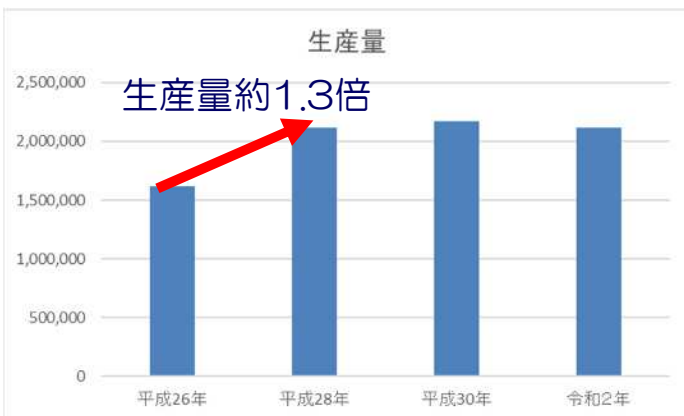
西浦柑橘共選場「光センサー式糖酸分析器導入」(H24)



「寿太郎みかん」ブランド加工品の開発

「寿太郎みかん」の機能性表示認可(H29)

「西浦みかん寿太郎」の地理的表示(GI)保護登録(R2)



近年の取引価格

「普通温州みかん」	260円/kg
「寿太郎みかん」	395円/kg
「プレミアムゴールド」	550円/kg

「西浦みかん土地改良区」
設立(R2)

J A 援農ボランティア
参加人数

R 3 年実績：延べ587名

R 2 年実績：延べ175名



今後の取組



【視点1】事業の必要性等／(2)投資効果、(3)進捗状況

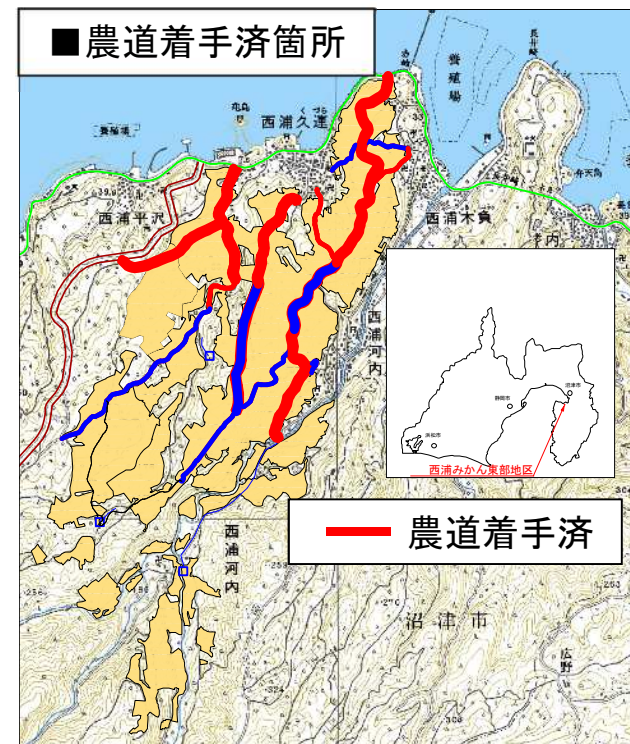
(2) 事業の投資効果

総便益(B) 61.39億円 総費用総便益比(B/C) 1.30
 総費用(C) 46.98億円 経済的内部収益率 6.9%

(3) 事業の進捗状況 (令和5年度末見込)

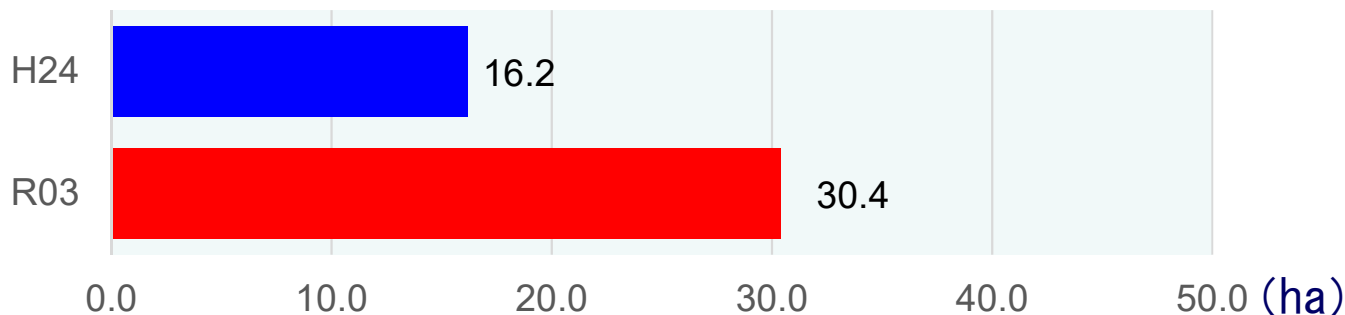
事業費進捗率 : 61.6% (2,711百万円／4,400百万円)
 事業量進捗率 : 49.3% (5,896m／11,961m)

	計 画	(進捗状況)
農道	延長 8,903m	(4,227m)
用水路	延長 3,058m	(1,669m)



■ 主要な担い手 (11名) への農地集積状況

(5 ha程度以上の耕作者)



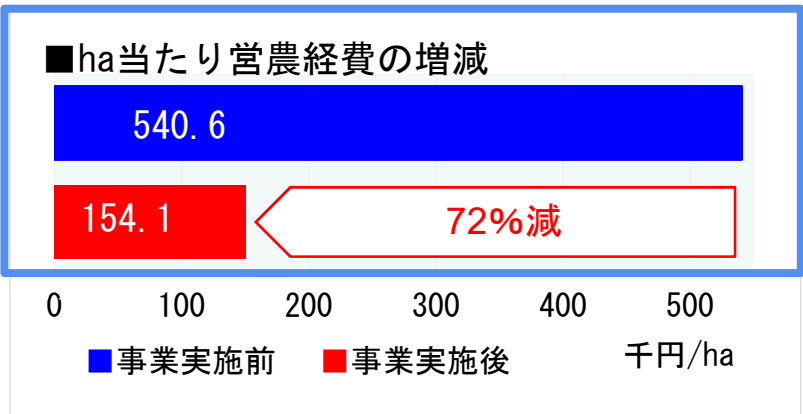
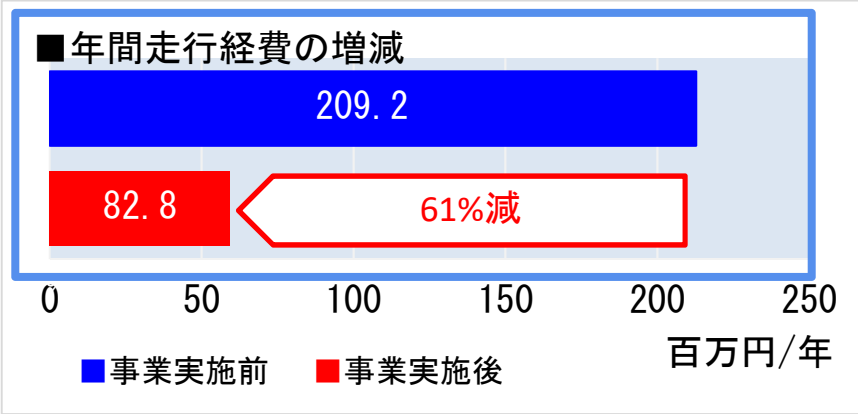
地区内耕作面積約2倍

【視点1】事業の必要性等／農道・用水の効果

農道改良による走行経費節減効果



用水新設による営農経費節減効果

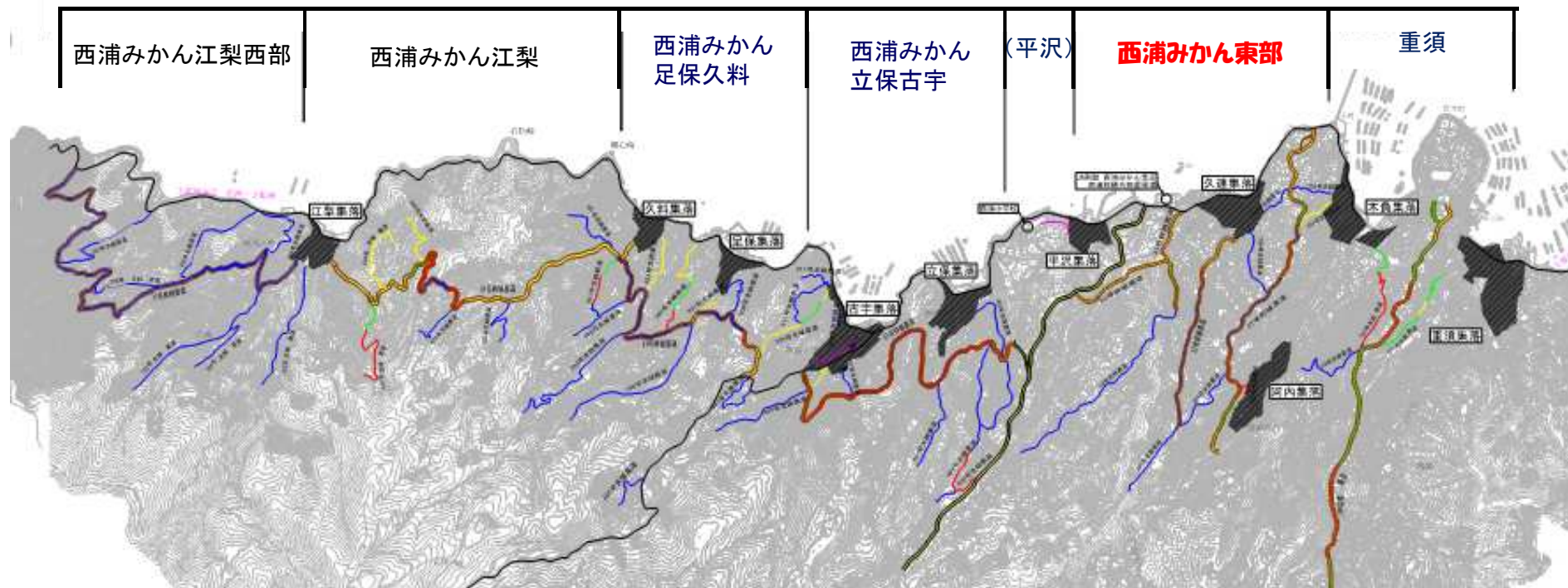


・ 移動時間（自宅→農地, 農地→出荷場）の短縮

・ 防除における用水運搬の作業時間の短縮

【視点1】事業の必要性等④／避難路

西浦地域の農道整備全体図



沿岸集落から樹園地がある高台までの支線農道及び幹線道路を「静岡県地震・津波対策アクションプログラム2023」の「避難路」に位置づけ整備している。

アクションプログラム2023	計画 (R4まで実績)	進捗率
6地区計	15,360m (7,748m)	50.4%
西浦みかん東部	3,680m (2,739m)	74.4%

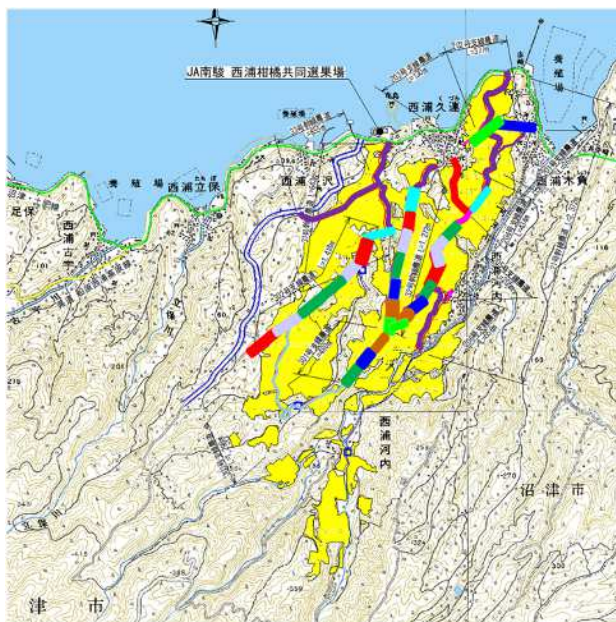
【視点2】今後の事業の進捗見込み

幹線／4路線

全延長4,942mのうち3,344mが完成(約70%)
(令和4年度末時点:2路線完成、用地買収8割完了)

支線／8路線

全延長3,961mのうち453mが完成(約10%)
(令和4年度末時点:1路線完成)

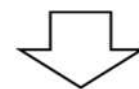


【現状と課題】

- ・ 現道幅が狭小で重機搬入が困難なため、片押し施工を余儀なくされる。
- ・ 工事実施が柑橘類の収穫・出荷時期を除く期間に限定される。
- ・ 上記より、これまで年間施工量が422m/年であった。

【今後の対応】

- ・ 完成した農道と現道の一部借地し、起点・終点の両方向から重機搬入させて年間施工量を増加させる。
- ・ 併せて、債務工事により継続した工事期間を確保する。
- ・ 今後の年間施工量は700m/年程度となる見込み。

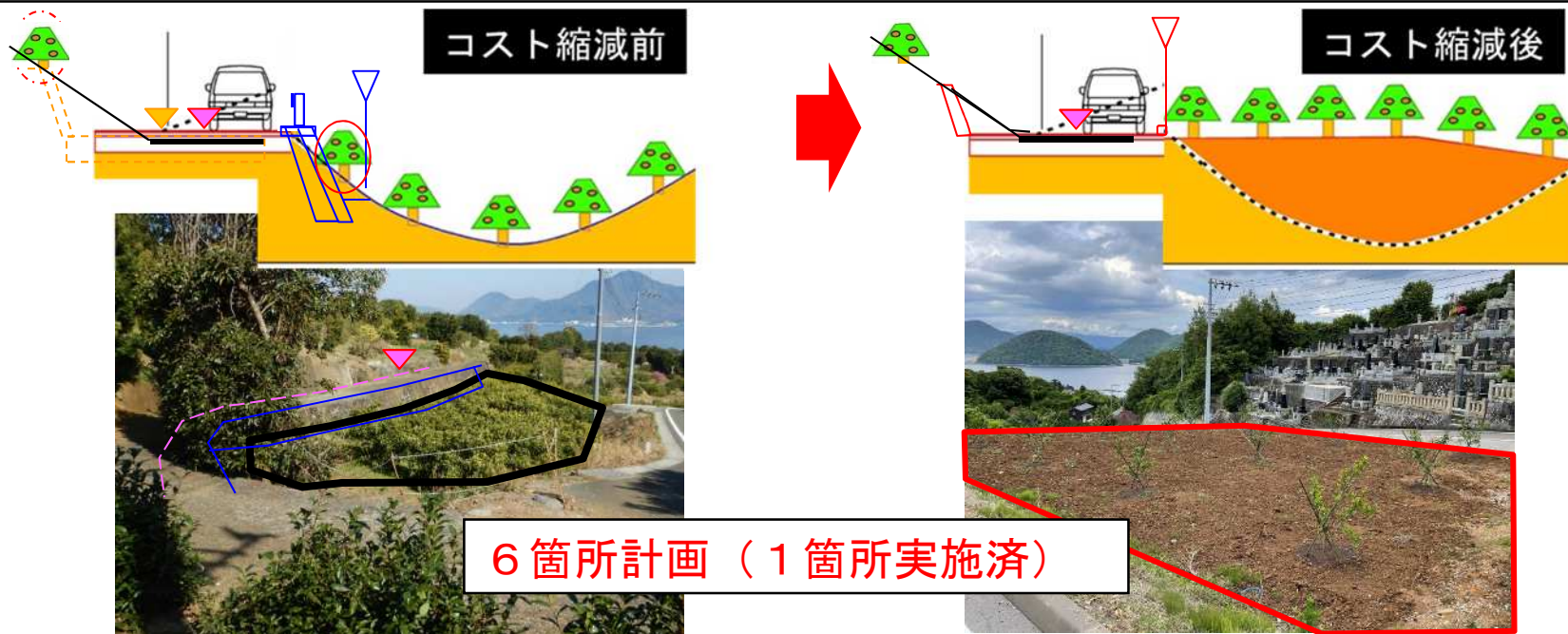


円滑な事業進捗のより令和11年度に完了見込み

【視点3】コスト縮減・代替案立案等の可能性

農道線形の見直しと優良農地の拡大【21幹道事例】

- ①農道中心線の決定に際し谷側へのシフトを選択
- ②農道を施工する谷側柑橘園の改植のタイミングに合わせ、建設発生土の搬入・圃場化と農道工事を同時施工（効果）
 - ・山側掘削と山側農地の減少を抑制
 - ・構造物（谷側ブロック積、ガードレール）削減と用地買収補償費の縮減
 - ・建設発生土を畑の基盤土や表土として活用することにより、耕作条件の改善や優良農地が拡大し、中心経営体への集積・集約化が見込まれる。（計画：約5.4ha 実績：約2.5ha（内5筆は中心経営体農地））

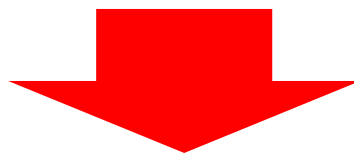


【コスト縮減見込み額／約226百万円】

- | | | |
|-----------------|---------|-------------------|
| ①構造物・用地買収補償費の削減 | 約71百万円 | 約11.9百万円/箇所×6箇所 |
| ②残土処分費の削減 | 約155百万円 | 約28.8百万円/ha×5.4ha |

対応方針（案）

- 本地区はブランド「寿太郎みかん」の産地として確立されている。
- 機能性表示認可やG I 保護登録により「寿太郎みかん」の高付加価値化が進められており、さらなる生産力強化や高品質化に資する基盤整備を実施している。
- 受益者は営農意欲が非常に高く、また農道を緊急時の避難路として期待しており、事業の確実な実行と早期完了を熱望している。
- 今後もドローンを利用した営農の実証実験を計画するなど、地域全体で生産体制の強化に向けた不断の取組を進めていく。



本事業を継続し早期完成を目指す。